

昭和35年、キリンビール入社、平成13年、同社退社。平成20年放送大学5年在学

『働くことは生きること』

平成13年7月21日、会社を定年退職した。前日まで身を置いていた工場建設プロジェクトチームのメンバーに見送られて車で工場の門を出たとたん、不覚にも涙があふれ出た。

時限のあるプロジェクトチームはかつてNHKで放送されていた「プロジェクトX」に見られるように、かなりきつい工程で運営されるのが普通である。深夜まで及ぶ過酷な労働に、時には呪いの言葉を吐きながら時には定年退職を指折り数えながら耐えてきた。稼動も軌道に乗り、過酷な労働から解放され、待っていた定年は多くのチームメイトからうらやましがられ、自身もそんな気分であったから、この涙は自分でも以外であった。

単身赴任先から自宅に戻り、半年ほどはゴルフやら旅行で過ごした。他人から見たら悠々自適であろうが、父から刷り込まれていた労働に対する倫理感にさいなまれた。曰く「1日働かずんば、1日食すべからず」

そんな鬱な日々を送っていた私を心配して妻が町の臨時職員の募集公示を持って来た。その職は遺跡の発掘作業であった。面接会場には20人ほどの募集に6倍の120人もの人が押しかけていて驚かされた。条件は雨天休業、1日7千円余、半日労働も可、2月から4月休業、年収にして100万弱というもので、特に好条件とは思えなかった。男性はほとんどが定年退職者で、女性は40代から60代とやや幅があった。

幸か不幸か私は採用されることとなった。今まで経験したことの無い、スコップでの穴掘りや、一輪車での土運びで手には豆が出来、体中がサロンパスの広告塔のようになったが、社会と繋が

ってられるという連帯感と労働して糧を得ているという満足感があった。

舞台俳優は倒れるまで舞台に立つのが理想だと聞いた。そしてこの10月に緒形拳氏がそれを実践して見せてくれた。ガンと闘いながら映画を撮り続けたという。俳優にとっては本当に働くことが生きることであるのが分かった。

今、日本の高齢化率進捗は急ピッチである。1970年7%であった65歳以上の人口は1994年に14%を超え、2005年には20.1%となった。老人医療費も10兆円規模となった。これは国家税収40兆の25%にもなり、この数字は増加の一途である。平成19年厚生労働白書の人口ピラミッドの変化表を見ると、高齢化率は2030年には32%、2055年には何と41%にもなる。

2030年まで私が生きていたとしたら、89歳である。父は74歳、母は96歳で亡くなっているから、もしかしたら私は生きていくかもしれない。

きれい事では済まされない数字である。この大勢の高齢者を抱えて、日本は繁栄していけるだろうか。死んで行くのであるから、あとの事はどうでもよいと言えるだろうか。

旅行に行ったとき同行した、人が言っていた。「我々は一生懸命働きこの国を豊かにしてきた、年金を貰う権利があり、それで大いに遊ぶのだ」と。

私は反論した「年金は積み立て給付では無く、賦課給付で現役者からの税で賄われている部分もあり、それは権利では無い」と。私の論は肯定されなかった。

私は今も6倍の競争を勝ち抜いたアルバイト応募者達と遺跡を掘っている。決められた時間に起き、労働をすることは、自身の健康にも良いし、父の労働倫理も裏切らない。地域にも役立ち、

社会とも繋がりが持てる。

退職後帰農した友もいる。働いて、小遣い銭を稼ぎ、少しは税も納める。彼とは共感出来ている。「働くことは生きること」と。